

## 鴻巣市立小・中学校通学区域審議会(吹上小学校・大芦小学校)の経緯

<p>【吹上町】</p> <p>平成 16 年 7 月 27 日</p>	<p>吹上小学校、大芦小学校の通学区域のあり方について(諮問①)</p> <p>※審議会5回</p> <p>【諮問理由】</p> <p>昭和 56 年度分の分離時にほぼ同規模であった両校間に大きな格差が生じていることから、2校の規模の格差解消のため、早急に通学区域の適正化について検討する必要があるため。</p> <p>(吹上小学校)</p> <p>昭和 56 年度:1,046 人(26 学級)</p> <p>平成 12 年度:605 人(20 学級)</p> <p>平成 16 年度:660 人(21 学級)</p> <p>(大芦小学校)</p> <p>昭和 59 年度:1,034 人(26 学級)</p> <p>平成 12 年度:230人(9学級)</p> <p>平成 16 年度:195 人(7 学級)</p>
<p>平成 16 年 12 月 22 日</p>	<p>吹上小学校、大芦小学校の通学区域のあり方について(答申①)</p> <p>【答申内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育効果を一層高めるには、学校は適正規模であることが望ましい。</li> <li>・「吹上小学校と大芦小学校の施設規模と児童数を見た場合、明らかに格差が生じており、この格差を解消するためには、通学区域を見直すことが必要である。</li> <li>・そのための具体的な案として、現在吹上小学校の通学区となっている富士見地区を、大芦小学校の通学区とすることが望ましい。</li> <li>・通学区の変更に際しては、関係する児童や保護者への十分な配慮が必要である。また、関係者の理解を深めるためには、十分な時間をかけることが望ましい。</li> <li>・そのためには、学区変更の時期は、平成 18 年度以降が望ましい。吹上町は、来年度中の合併を目途としており、平成 18 年度は新市でのスタートが予測されるが、本答申は新市に反映されるように配慮すること。</li> </ul>
<p>平成 17 年 9 月 26 日</p>	<p>吹上町教育委員会から鴻巣市教育委員会に対して、吹上町小・中学校通学区域等審議会から平成 16 年 12 月 22 日付で答申された「吹上小学校、大芦小学校の通学区域のあり方について(答申)」が引き継がれる。</p>

平成17年10月1日	鴻巣市・吹上町・川里町の合併
【鴻巣市】	
平成17年11月22日	「合併による通学区域の諸問題について－吹上小学校並びに大芦小学校の通学区域の適正化について－」(諮問②) ※審議会4回
平成19年3月26日	「合併による通学区域の諸問題について－吹上小学校並びに大芦小学校の通学区域の適正化について－」(答申②) 【答申内容】 ・平成16年12月22日付で吹上町教育委員会に提出された吹上町審議会答申は妥当。 ・しかし、学区変更の時期については明確な年度を設定するべきではない。今後は当該2校の通学区域の課題のみならず、児童生徒の安全、教育効果、まちづくり等の観点から、将来を見据え、計画的な通学区域の変更等について、横断的且つ大局的な検討が必要。 【答申に至る背景】 ・審議の途中において、吹上中学校の普通教室等の耐震強度不足による急遽のプレハブ校舎対応の必要性、また、吹上小学校木造校舎の耐力度を補う場合には大規模な改造が必要になること等の新たな課題が浮上。 ・吹上駅南口の整備等を含めた今後のまちづくりの構想もあること等、本審議会が2校の通学区域の変更のみの具体的答申は出せない状況が生じた。 ・吹上町審議会の答申については、その意図するところを適切・妥当としながらも、事態の動向を十分見極めつつ、さらに実態にあった通学区域のあり方が必要。
平成22年12月10日	今後の吹上小学校及び大芦小学校の通学区域の在り方について(諮問③) 「平成19年3月26日付答申(「合併による通学区域の諸問題について－吹上小学校並びに大芦小学校の通学区域の適正化について－」)の取扱いについて」 ※審議会3回
平成24年2月20日	今後の吹上小学校並びに大芦小学校の通学区域の在り方について(答申③) 「平成19年3月26日付答申(「合併による通学区域の諸問題について－吹上小学校並びに大芦小学校の通学区域の適正化について－」)の取扱いについて」 【答申内容】 ・当該2校の通学区域変更の凍結を解除する大きな状況の変化はなく、通学区

域の見直しについて明確な年度を設定して通学区域の変更を行うことは困難であるとともに、今後も引き続き凍結状態を継続することは有益でないと判断し、当該 2 校の通学区域の変更については、凍結状態を継続せず、白紙に戻すことが妥当であるとの結論。

・今後の通学区域の見直しに当たっては、部分的に見直しを行うのではなく、鴻巣市立小・中学校全体を見渡し、学校規模の適正化を図るビジョンの構築を望む。

**【主な意見】**

・吹上富士見地区は、吹上小学校と道を隔てて30m位の地域もあり、そうした地域の児童が大芦小学校へ通うことを考えると通学区域の見直しは難しい。

・この問題について、凍結後3年を経過しているが、該当校である吹上小学校の保護者から話題にされることはない。

・通学区域というのは一度決めると反対もあり、簡単には変更はできないと考えているため、今回は白紙とし、鴻巣市全体として改めて見直しを考えるべき。